

講習会受講感想文

測量士試験に向けて

旭川設計測量株式会社 清水 知 洋

苦節4年、恥ずかしながら自分はやっと4年で合格することができました。僥越ながら時間がかかりながらも、決してあきらめずに毎日コツコツやれば身になるということを感じ、自身の体験談として述べさせていただきたいと思います。

試験勉強をしたという学生時代ぐらいで、何年も勉強から離れていたのも、自分も最初の頃は苦手意識が強く、むりくり机に向う毎日でしたが、短くても毎日机に向っていると段々となれていきました。毎日やり続けていけば最初は短い時間だったのが、勉強に集中できるようになり気づくと勉強時間が長くなっていきました。

現在は、インターネットでの試験攻略の支援サイトもある時代です。それらも活用し、なお且つ、会社のご好意により協会で行っている講習会等にも行かせていただきました。この講習会が勉強を始めるよいきっかけとなり、自分ひとりで参考書の難しい記号の例題を解くよりも、講師の方のわかりやすい丁寧な説明を、人の言葉で聞くことで自然に頭にはいってきました。講習を受けて、実務で行っている科目については再確認でき、実務で携わっていない地形測量・写真測量・地図編集の科目については、要点を教えていただき、効率よく勉強することができました。この苦手な科目をどれだけ正解するかで試験の合否が左右されてくるので、大変有意義な講習会となりました。

実際に行った勉強方法ですが、最初の数年は実務が忙しい6月から12月までは、勉強時間を確保することが困難であるため、冬から春にかけての1月から5月中旬までのあいだで、ほぼ毎日過去の問題を繰り返し解いていきました。このあいだはどんなに時間がとれなくても、1・2時間、もしくは30分でも勉強するようにしました。そうすることで勉強が日課となり、勉強するのがあたりまえになっていきました。また、1年目不合格で2年目の冬からまた勉強し始めましたが、やはり1年目の勉強は無駄ではなく、すぐに半年のブランクを取り戻すことができました。難しい公式等も記号ではわかりづらいので、問題の数字で覚えていきました。記号よりも数字のほうが公式の解き方がわかりやすく、すぐに頭に入ってきました。この方法で4年かかりましたが、やっと合格することができました。何年も不合格の通知をみては、深いため息をつく日が続きましたが、あきらめないでやり続けることで報われるということを感じました。まさに『継続は力なり』だと思います。

最後に、講習を受けさせていただき、休日もとらせていただいた社長をはじめ、会社の方々、わかりやすく丁寧に説明してくださった講師の方々、実務で忙しい最中、勉強時間をつくることに協力してくださった上司・同僚のみなさん、そして試験合格にむけて叱咤、激励をしてくださった方に深く感謝いたします。

初めて書く人のための「簡易型技術提案書」 対策講座を受講して

小杉測量設計株式会社 小 杉 由 明

私は、平成24年1月25日から2日間に渡って開催された初めて書く人のための「簡易型技術提案書」対策講座に参加しました。

当社では、本講座以前にも何度か総合評価落札方式の入札に参加していましたが、測量業務における技術提案書の書き方については情報が少なく毎回、営業部門と技術部門とで会議体などを通じコミュニケーションを図りながら試行錯誤を繰り返し作成していましたが、評価点については思うような結果を残せていませんでした。そのような中、本講座の道内での開催を知り当社からは、私は営業部門代表としてもう1名は技術部門代表の2名での受講を直ぐに申し込みました。

当日の参加者は30人程度で、公募型入札では技術者の実務経験も重要視されるため、業界全体の抱える問題ですが、若干年齢層が高い印象でした。

講座内容につきましては、始めに近年の入札方式の概要や技術提案書を書くための心構えなどの説明がありました。この時印象的だったのが「他社との差別化を図る」という言葉で、私

は本講座は「技術力向上」はもちろんですが一番の目的は「勝つ」ための講座だと確信しました。

次に技術提案書の具体的書き方や留意点、参考文献の紹介などがあり、実際のテーマに沿って技術提案書を作成する実習がありました。私は近年、積算等営業業務に日々追われることが多く「現場」を見る機会が少なく、この実習では文書を書く手が止まってしまい、改めて「現場」の認識不足を痛感させられました。実習で作成された技術提案書は何人かの代表者の方々によつての発表と、講師による総評が行われました。この時の代表者の方々の作成された技術提案書は限られた時間で作成されたにも関わらず、非常にレベルが高く感心させられたと共に大変参考になりました。

今回の講座の中で私が一番期待をしていた、申し込み時に各社が提出した技術提案書の内容に個別にアドバイスを頂くというプログラムがありました。この時のアドバイスは期待どおり非常に充実した内容で時間ギリギリまで沢山の質問をしましたが、すべて丁寧に解答して頂き





ました。本来であればアドバイスの内容についてももう少し具体的に書きたいところですが、技術提案書の書き方のノウハウは各社企業秘密であり財産であるためこの場では控えさせていただきますが、本講座の感想を一言で申しますと「今までの私の考え方では甘かった」と認識しております。

講座終了後、社に戻り講座内容の報告を行い、複数人の意見を集約し技術提案書を作成し総合評価落札方式の入札に挑みました。結果は残念ながら受注には至りませんでした。技術提案書の評価点については満足のいくものでした。まだまだ、当社で参加できる総合評価落札方式の入札は少ないですが、この結果を踏まえPDCA サイクルを繰り返し受注に結びつきたいと考えております。



最後に私見ですが、近年の入札制度は猫の目のように変わり複雑化しております。そのような中、我々は「文書作成力」のみならず「文書読解力」も求められており、制度内容の理解不足や書類の不備によりスタートラインにすら立てないこともしばしばあります。また、技術提案書の導入により文書の内容のみで判断されて実務が提案書どおり実施されないというケースもあると聞きます。本来の技術に基づいた提案力、誠実さ、コスト把握能力等を持つ会社が適正な価格で受注する事が出来るよう業界に身を置く一人として少しでも寄与できればと思います。

また、今回有意義な講座を開催していただきました日本測量協会の皆様、瀬戸島専務理事、住田講師大変ありがとうございました。



「デジタルカメラを使った 写真測量のしかた」に参加して

株式会社 東鵬開発 中 村 邦 夫

近年、情報化施工を代表に測量・建設コンサルタント業界では急速に二次元から三次元へと対応を迫られる中、当社ではコンサルタント業の一環としてラジコンヘリコプターによる空中写真撮影に力を入れており、三次元モデル作成計測のため写真測量ソフトも導入しており環境が整っていました。

当時、私は写真測量関連の担当ではなく「実測に勝る精度なし」という考えから写真測量に対して否定的な考えを持っていた一人でした。実際、写真測量をしても良い結果が得られていないケースもあったのが現実でした。

そんな折に斜面全体が切立った岩盤を調査することになり、現地写真を見たときに愕然としました。

「ここに登るのは無理だろう・・・」

ノンプリズムで横断測量はできるかもしれない。しかし、岩体形状を詳しく測定するのは難しい。

作業計画を考え、結局はグリットスキャン機能を備えたTS（レンタル）を使用することに至ったのですが、デジタル写真測量も試験的に実施し、スキャンデータと整合を確認することにしました。

ソフトの説明書を読み、曖昧ながらもなんとか解析することには成功し、スキャンデータと写真データを断面で比較したところ大差ない結果が得られたのです。そこで本格的にデジタル写真測量を覚えて活用しない手はないと思いました。

写真測量を何回か実施している中で、標定用ターゲットの大きさは？どのように撮影すれば

もっと高精度に測量できるか？その結果は本当に自信をもって良い精度を有しているのか？疑問ばかりで頭を悩ませておりました。

その頃、月刊「測量」の講習案内で、本講習が札幌で開催されることを知り、社長に頼み自発的に参加してみました。

本講習では、デジタル写真測量の概念・メリット・写真測量の限界など村井校長の分かりやすい講和から始まりました。

その中で私が最も注目した点は、デジタル写真測量の精度でした。市販カメラでレンズの補正を行なったもので計測される奥行き精度は、撮影距離の1/2万以上、つまり撮影距離100mで僅か5mm以下ということでした。もっと近距離で撮影した場合はまだまだ精度が上がることです。これには感心してしまいました。工業製品の計測などでデジタル写真測量が使われるということにも納得です。

実習では、T社の写真測量ソフト（体験版）のインストールからキャリブレーション・モデリングまで一つ一つの手順に講師の分かりやすい説明のもと順を追って行なっていきました。季節も冬でしたので、屋内での模型の撮影でした。屋外で撮影・計測が出来れば、なお良かったのかなと思いましたが、手順を覚えるには十分な内容で、デジタル写真測量の解析・モデリングは難しいものではなく、一度講習に参加すれば誰もが行なえる測定方法だと感じました。

今回の講習で、精度検証・標定用ターゲットの大きさ・被写体に対するプランの立て方など様々なことが解決でき参加して本当に良かったと思います。

TS・GPSによる測定など測量方法は様々であり、メリット・デメリットがあります。もちろんデジタル写真測量にもありますが、これらの長所を組み合わせることで今後の測量業務に生かしていければ、私自身の測量の幅も広がり良い方

向に繋がって行くと思いました。

最後に、講習を開いて頂いたサーベアカデミー村井校長、大谷講師、日本測量協会北海道支部の皆様に深く感謝申し上げます。



GNSS 及び TS による 基準点測量技術講習会を受講して（網走会場）

櫻井測量設計株式会社 長 尾 美 紀

日本測量協会が主催している技術講習会には、頻繁に参加させていただいています。

毎回、測量技術に関し、得ることが多く、有意義な講習と思っています。

札幌会場での講習会は、仕事の関係上、時間調整が大変でしたが、今回は網走で2日間も開催していただき、大変感謝しております。

アメリカ衛星「GPS」、ロシア衛星「GLONASS」が併用使用できる事となり、これに伴い、公共測量作業規程の準則も、従来のGPS測量からGNSS測量へ改正され、改正点もピンポイントでかつ漏れのない、とてもわかりやすい説明をしていただきました。

1・2級基準点測量時の網の組み方、解析方法に至るまで、本当に実務に沿った内容の講義で、実際の作業時の不安を解消してくれます。

TSによる3・4級基準点測量は、一般的な部分はもちろんの事、北海道特有の地形を考慮した配点方法等についてもお話があり、今すぐに業務に生かせる内容でした。

また、製品仕様書・品質評価表・メタデータ等の作成についても、難しいものと勝手に思っ

ていましたが、講習を受けて、自分にも出来ると確信する事ができました。

今回、女性の受講者が私1人だったのは、残念でした。

現場での力作業や山登りは、やはり男性には勝てません。

しかし、観測作業や計算整理、それこそ製品仕様書の作成等については、肩を並べていける自信が本当につきました。

測量業界は、まだまだ女性は少ないですが、女性特有の細やかさ（私は微妙ですが）は測量に向いていると思っています。

私の名前は「みき」なのですが、電話等で「よしのり」さん居ますか？と言われることが多いのは玉にキズですが・・・。

最後になりましたが、このように近隣地域で今回の講習会を開催していただけた事に、心から感謝致します。

これからも、このような機会が増えてくれればと切に願います。

まさに、かゆいところに手が届く講習会でした。



GNSS 及び TS による 基準点測量技術講習会を受講して (旭川会場)

株式会社イズム・グリーン 佐 藤 誠

私は、2日間に渡り「GNSSによる1・2級基準点測量」、「TSによる3・4級基準点測量」について受講しました。基準点測量は測量の基礎となるので、精度の高い測量成果や新しい測量技術による作業効率向上を目的に、過去にも何度か受講しています。

講習内容はGNSS (TS) による基準点測量の配転計画から電子納品までの一連の流れ、複数の衛星測位システムの利用、セミ・ダイナミック補正、測地成果2011の標記等を説明していただきました。村上講師の説明や講習会で使

われたテキストが解りやすく『作業規定の準則』について再確認することができました。

GNSSについてはGPS・グロナス・ガリレオ・準天頂衛星等と測位衛星の利用が拡大された時にどれぐらいの悪条件で精度の高い測量成果が求められるか楽しみです。

今後も講習会を受講し年々変わっていく測量技術に取り残されないようにしたいと思います。

最後に基準点測量技術講習会を開催していただいた日本測量協会の皆様に感謝申し上げます。



講習会写真集

● 地理空間技術セミナー

平成24年 1 月 27 日



● 基準点測量 A 課程

平成24年 2 月 7 日～10日



● 応用測量技術講習会

平成24年 3 月22日



● 測量士国家試験対策セミナー

平成24年 4 月 4 日～ 6 日



基準点測量技術講習会
帯広会場

平成24年 4 月12日～13日



札幌会場



測量・地図の中級講座
GNSS コース
TS コース

平成24年 5月14日～15日
平成24年 5月16日～17日



■ 用地測量調査講習会

I コース

II コース

平成24年 5 月21日～25日

平成24年 7 月30日～ 8 月 8 日



■ 測量成果電子納品講習会

平成24年 6 月28日～29日



web でつなぐ第2回公開講座

平成24年10月15日



web でつなぐイブニングセミナー

平成24年11月6日

